ブダペスト通信

盛田　常夫

2024 年　NO. 11

6 月 11 日

2024 年ハンガリー地方選挙および欧州議会選挙

－政治勢力の変動を見る

6 月 9 日に実施された一斉地方選挙ならびに欧州議会選挙は、ハンガリーの政治における新たな変動を予感させるものになった。最大の焦点は、「Fidesz から離反したマジャール・ピーテル率いる Tisza Part がどれほど票を獲得するか」だった。マジャール・ピーテル自身は Fidesz の中枢機能を担った人物ではないが、前夫人のヴァルガ・ユーディットはオルバン内閣で法相を務め、Fidesz 政府内部の事情を詳しく知りえる立場にあった。また、ヴァルガ・ユーディットは今次の欧州議会選挙で Fidesz の顔としてリストの最上位候補として選挙を戦うはずだったが、ペドファイル・スキャンダルとマジャール・ピーテルの反乱で政治の世界から身を引いた。

Fidesz 陣営は公共放送と潤沢な公的資金や裏金を使って、連日、野党攻撃とマジャール・ピーテルへの個人攻撃を続け、外国から資金を得ている「ドル左翼」、政府に批判的なメディアを「ドルメディア」と決めつけている。ウクライナ支援に積極的な野党を「戦争政党」と命名し、自らを「平和の党」と自賛する宣伝戦を繰り広げた。侵略者ロシアとプーチンに忖度する政党が「平和の党」であるはずはないが。

事前の世論調査では、Tisza Part の支持層の 18%がこれまで選挙に行かなかった無党派層、13%が Fidesz 陣営から離れた層、過半が前回の選挙で野党統一候補を支持した層で、Tisza Part の躍進で Fidesz の得票率は前回の 52%から 45%へと下落すると分析された。この分析に従えば、Fidesz は得票を減らすものの大きな政治変動を阻止できるが、他方で野党のかなりの票が Tisza Part に流れ、旧左派勢力が苦戦するという結論が導かれた。実際の選挙結果は事前の分析にほぼ沿うものになった。

欧州議会選挙結果

欧州議会選挙はいわば全国比例区のようなものだから、現在の政治勢力の状況を見るのに最適である。

今回の欧州選挙結果（ハンガリーに与えられた議席総数は 21 議席）は表 1 の通りである。Fidesz は事前の予想通り、得票率を 7.9%減らし、議席を 2 議席失った。Fidesz の全国得票は 2010 年以降一番低い数値となったが、それでも今回の選挙が総選挙であれば、三分の二の議席を獲得できる得票数である。

ただ、これだけお金をかけて反野党、反マジャール・ピーテルの総攻撃を行っていながら、200 万票をわずかに超える得票しか得られず、マジャール・ピーテル一人の反乱行動が Fidesz の得票の三分の二に匹敵する得票を得たことは、今後の Fidesz の政治戦略にとって無視できない現実である（2022 年の総選挙では 300 万票を超える得票を得ている）。Fidesz 権力の中枢からさらに反乱分子が出てこれば、Fidesz は大きな打撃を受けることになるから、内部の引き締めが強まるだろう。

表１　2024 年（2019 年）欧州議会選挙結果

	得　　票		議　　席	
	得票数	得票率	2024 年	2019 年
Fidesz-KDNP	2 015 972 (1 824 220)	44.62(52.56) %	11	13
Tisza	1 341 499 (　-　)	29.69 (-) %	7	-
DK-MSZP-Párbeszéd	366 093 (786 632)	8.10 (22.66) %	2	5
Mi Hazánk	305 226 (114 156)	6.76 (3.29) %	1	0
Momentum	166 457 (344 512)	3.58 (9.93) %	0	2
MKKP	161 806 (90 912)	3.58 (2.62) %	0	0
Jobbik	45 323 (220 184)	1.00 (3.29) %	0	1

注：得票欄のカッコ内は 2019 年のデータ。2019 年の選挙で、DK は単独リストで候補者を擁立し、MSZP と Párbeszéd が合同リストで候補者を擁立した。2019 年の得票はこれら 3 党の得票を総計したものを掲示している。

明らかに、Tisza Part の躍進で大きな影響を被ったのは既存の野党、とくに左派系野党である。Tisza Part が得た 7 議席のうち、2 議席は Fidesz から、そして 5 議席は旧社会党系と Momentum から得たと考えるのが自然である。その意味で、Tisza Part の躍進は野党に打撃を与え、今後の再編成を促すものになった。

旧社会党系の停滞は今に始まったことではないが、ジュルチャニィ（元社会党党首、首相）では政権交代は不可能という左派支持者の見切りが、政権交代の可能性を抱かせるマジャール・ピーテルの党への支持となったと考えるべきだろう。ハンガリーの政治そのものが若い政治家に未来を託すという方向へ動き出せば、これから大きな政治変動が起きる可能性がある。35 歳で首相に就任したオルバンも、もう 60 を超える歳になった。歳とともに、体型も思想も若いオルバンとは似ても似つかぬものになってしまい、腐敗まみれになっている。Fidesz 権力中枢から反乱者が出

ないのは不思議なほどだが、相互に利権で固く結ばれた人間関係は、簡単に崩れそうにない。マジャール・ピーテルの反乱は Fidesz 中枢からではなく、中枢の周辺からの反乱である。権力者の子息たちが法外な利権を享受し、そのおこぼれに与かろうと群がる人々の覚醒を求めるのは難しいが、このような卑しい社会行動の蔓延に義憤を感じる若者がもっと多くいてしかるべきだろう。マジャール・ピーテルへの支持者の多くはこのような義憤を抱いている人々だと考えたい。

時代はポスト・オルバン、ポスト・ジュルチャーニィ時代へと動きつつある。今回の欧州議会選挙の傾向として、いわゆる左派勢力の大幅な後退がみられるが、ハンガリーだけでなく、旧態依然としたスローガンを掲げるだけの左派勢力が支持を失うのは当然だ。空想的な移民問題の処理が左派勢力の交代を招いている。社会を再生させる鋭い批判精神と構想力をもつ若い政治家の登場が望まれる。

権謀術数の首都首長選挙

今回の一斉地方選挙の最大の見どころは、首都ブダペスト市長をめぐる首都決戦であった。前回の選挙で政権与党からブダペスト市長を奪還した野党は今回もカラチョニィ市長を擁立したが、前回のような反政府野党統一候補としてではなく、主としてジュルチャーニィの DK の支持を得た候補として立候補した。Fidesz は女性候補セントキラーイを擁立したが、さらに LMP が Fidesz 政権で運輸関係の仕事に従事してきたヴィティーズ・ダーヴィッド（Vitézy Dávid）を擁立するという高等戦術が立案されたために、複雑な選挙戦となった。

前回選挙で野党統一候補であるカラチョニィを推した LMP は非オルバン非ジュルチャーニィをスローガンにヴィティーズを擁立した。Fidesz の支持を得て、2010 年から 2019 年までブダペスト市長だったタルロシュ・イシュトヴァンは、2010 年の市長就任と同時にオルバン首相がブダペスト交通公社の第一社長ポストに 25 歳のヴィティーズをごり押ししたために、「未熟な若造を重要なポストに就けた」と不満を漏らしたことがある。それから時間が過ぎ、40 歳間近になったヴィティーズが、Fidesz の市長候補と並んで、ブダペスト市長に立候補することになった。

この三者で票を分け合えば、カラチョニィに有利に働くことは明らかで、どこかの時点で、LMP か Fidesz のどちらかの候補が立候補を取り消すだろうと囁かれてきた。舞台裏で LMP が Fidesz と結託しているのではないかというわけである。さ

らに、マジャール・ピーテルはどちらの候補も支持しないと公言したために、Tisza Part の支持者が誰に投票するかにも注目が集まった。

Fidesz は投票日 2 日前の立候補取下げ期限ぎりぎりになって、セントキラーイの立候補を取り下げ、ヴィティーズ支持を打ち出した。政治家同士の間ではシナリオ通りの筋書きだったとしても、Fidesz 支持の一般有権者には戸惑いが広がっただろう。LMP 支持者の間でも、この高等戦術に納得しない人々もいただろう。例年になく無効票が多くなった。この結果、深夜を過ぎても当選者を確定できない接戦が続き、最終的にわずか 324 票差で、現市長カラチョニィが当選した。

カラチョニィ　371 466 票（47.53%）

ヴィティーズ　371 142 票（47.49%）

無効票　24 595 票

筆者も地方選挙の投票権を持っており、ブダペスト市長投票用紙を目にしたが、ブダペスト 2 区で配られた投票用紙のセントキラーイの氏名欄は黒塗りになっていた。ところが、別の選挙区（投票所）では氏名に細い横線を引いただけのものや、完全に覆い隠せない黒塗りの投票用紙を用紙するなど、投票所によってバラバラな投票用紙が用いられていた。この種の不手際（いい加減さ）も、無効票を増やしたと思われる。ヴィティーズは再集計を求める意向のようだが、再集計しても結果は変わらないだろう。

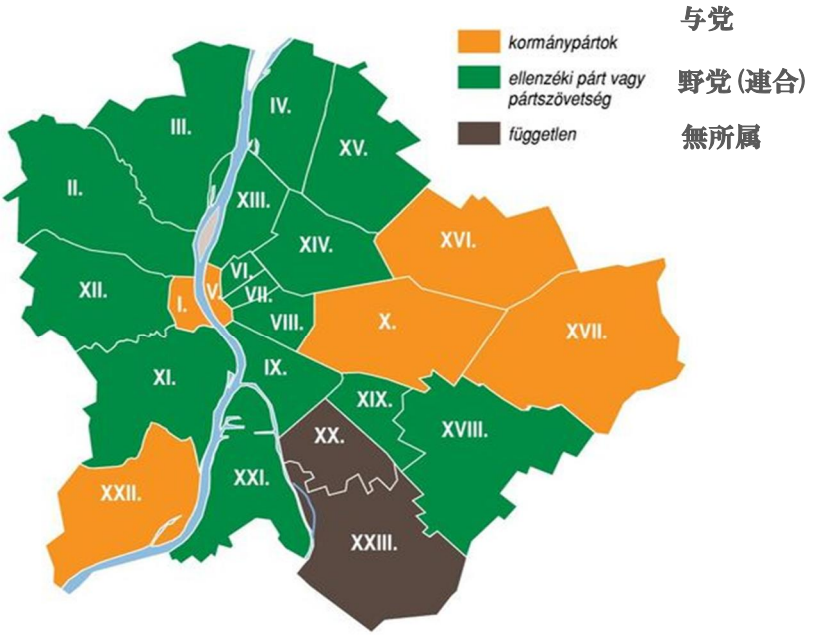

図 2　ブダペスト 23 区長の会派別分布

首都以外の政治状況

地方の県知事選挙（県庁都市）では野党はそれなりの存在感を発揮しているが、さらに小さな市町村になるにつれて、与党の候補が圧倒的な強さを誇っている。2024 年の選挙でも、その動向に変化はなかった。これこそ、Fidesz 政権の長年の戦略であり、知識人が多い都市の敗北は忘れて、地方の住民と年金生活者をターゲットにするのが Fidesz 権力維持の主要戦略である。

県知事（県庁市長）選挙では与党と野党が一進一退で、ほぼ現状維持の状況で終わった。このうち、Fidesz の牙城のジュールでは Fidesz 候補のほかに、セックススキャンダルで辞任した元市長のボルカイが立候補したために、与党陣営が分裂して、野党候補が当選した。アウディ工場を抱えるジュール市の利権をめぐる激しい戦いが、与党利権勢力の股裂き状態をもたらし、野党候補が漁夫の利を得た。

他方、中国のバッテリー工場建設で揺れるデブレツェン市は与党候補が 48%強の得票で引き続き市長の座を守り、市議会議員 23 個人選挙区すべてで当選を果たした。デブレツェンは Fidesz が絶対的な力をもつ町であり、バッテリー工場建設反対運動の政治的効果はまったく見られなかった。経済的利益と利権が最優先された結果であり、住民の不安や不満は完封された。

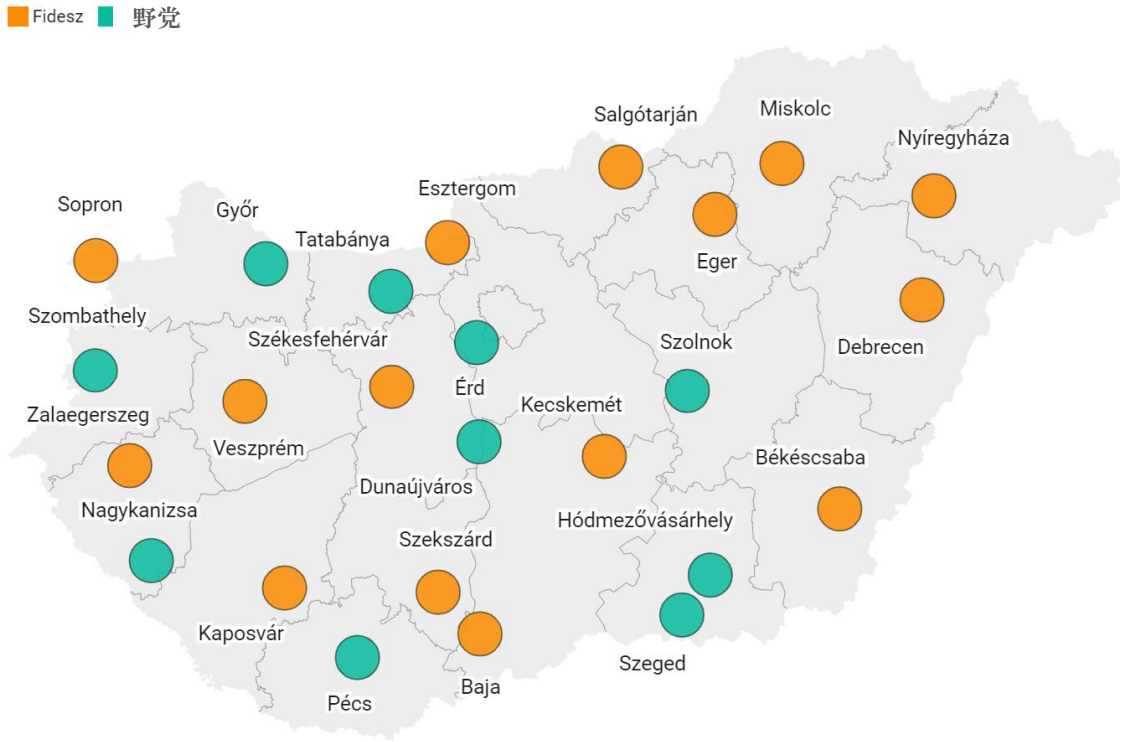

図 2　県庁所在地の市長（事実上の県知事）選挙の結果

市場経済が発展していないハンガリーでは公的発注の利権や外国企業のもたらす就業機会と税収入が町の発展を支えている。これに逆らえるほどの町の発展プランがない限り、与党勢力の天下は続く。しかし、ハンガリー経済全体が外国企業依存と公共事業発注で支えられている限り、自立した市場経済を発展させる道は閉ざされ、賃労働を軸とした経済二流国三流国から脱出することは不可能である。一部の公金事業で焼け太った企業集団が出現しても、それがハンガリー経済全体の発展を押し上げることにはならない。

Fidesz 政治は基本的に旧社会主義時代の支配システムをベースにしており、オルバン独裁政治が続く限り、ハンガリーがヨーロッパの中進国になっていくのは難しい。それがまた、ロシアや中国への依存を高める方向に動いていく。他方、ポスト・オルバンのハンガリー政治は大混乱を生む可能性がある。